

平成23年度第1回秋田市中心市街地活性化協議会議事内容

平成23年6月10日13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

(議事内容)

- 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80
- 出席者 委員：14名 オブザーバー：3名
- 報 告 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について
(2) 秋田市にぎわい交流館等運営サポーター(仮称)活動内容について
(3) 中通一丁目地区市街地再開発事業の進捗状況について
(4) その他
- 案 件 (1) 平成22年度事業報告・収支決算について
<監査報告>
(2) 平成23年度事業計画(案)・収支予算(案)について
(3) 任期満了に伴う委員の改選について

結果報告

渡邊靖彦会長が開会挨拶を行った後、事務局より、今年度から当協議会のタウンマネージャーに就任した河村 守信 氏を紹介した。当協議会では、戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金「中心市街地活性化協議会事務局支援」に公募申請し、採択され、今年度より事業を実施をすることとしている。

次第に従い、報告(1)「秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について」はフォンテAKITAへ入居する公共施設「子育て・学び・文化サテライト(仮称)」の概要を含め秋田市都市整備部まちづくり整備室加藤主査から、報告(2)「秋田市にぎわい交流館等運営サポーター(仮称)の活動内容について」秋田市中心市街地活性化市民サポーター会議柏木代表から、報告(3)「中通一丁目地区市街地再開発事業の進捗について」中通一丁目地区市街地再開発組合高橋理事長から説明を受けた。また、報告(4)その他として、当協議会委員秋田商工会議所藤井副会頭(秋田まちづくり㈱代表取締役社長)から秋田まちづくり㈱の現況について、情報提供を受けた。

その後、質疑応答に移り、委員からは次のような意見や質問が出され、各担当者から説明があった。

報告(1) 秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について

(フォンテAKITAへ入居する公共施設「子育て・学び・文化サテライト(仮称)」の概要を含む)

<質問>

- ・フォンテ内入居予定の子ども広場の利用料金600円はリーズナブルで一般的な利用料金であるのか。

<回答>(秋田市まちづくり整備室)

- ・一般的な利用料金である。

< 質問 >

・子ども広場について、施設内容を見ると「アルヴェ」の市民交流サロンのキッズスペースと内容が似かよっているが、区別をどう考えているのか伺いたい。

また、利用者の駐車料金の件について、この施設は子育て中のお母さんたちが利用すると思われる。「アルヴェ」の子ども施設がなかなか利用されない理由として、駐車料金を負担してまで利用したくないという話がある。フォンテ文庫の利用者には一部駐車料金を補助すると記載されているが、子ども広場の利用者への駐車料金の配慮はあるのか。

< 回答 > (秋田市まちづくり整備室)

・子ども広場のような施設設置の要望が多かったことを踏まえ開設することにした。「アルヴェ」との区別として、託児機能を併設していることであり、託児機能は子ども広場の売りでもある。

駐車料金に関しては、ショッピングセンターの中にある施設であることから、親たちの買物中に託児コーナーを利用すると考えているので、基本的に、駐車料金については、買物をした分の駐車料金のサービス券を利用してもらうことを考えている。

報告 (3) 中通一丁目地区市街地再開発事業の進捗状況について

< 質問 >

・仲小路につながっている道路は自由に通り抜け出来るようになっているのか。

< 回答 > (高橋委員)

・仲小路へは通り抜け出来る計画になっている。

< 質問 >

・広小路アーケードを撤去せずに残す方向で考えていけないものか。今、たまたまシャッター通りになっているからといって、アーケードを撤去してしまうと、せっかく再開発事業で新しい施設が出来ても、人が集まりづらくなるのではないか。アーケードの撤去によりまちづくりに影響が出てくるものとする。

< 回答 > (高橋委員)

・広小路のアーケードで再開発工事に係る部分として、日本生命ビル前のアーケードは工事に影響があるため撤去させていただく。

< 回答 > (佐々木委員)

・広小路商店街では、アーケードを設置した当時は、大型店を含め50店舗の組合員で維持費を負担していたが、現在、大型店はなく、12~13店舗の組合員で維持費を負担している現状である。アーケード撤去について屁理屈を言えばたくさんあるが、平たく言えば問題は維持費の確保だけである。それをクリア出来れば、どう考えてもアーケードはあった方がいいはずである。しかし、昨年、市民を交えてのアーケード存続検討会議において、維持費がないのなら仕方がないというご理解をいただいた経緯がある。広小路を融雪道路として整備することになっているので、今後はその中で活路を見出していきたいと考えている。

<意見> (渡邊会長)

・アーケードはあった方がよい。融雪道路ではうまくないという気持ちを持っている。広小路商店街とも何かお話し出来ることがあれば話をしたい。ただ、アーケード撤去で話が進んでいる中で、なかなか難しいとは思いますが、意見は意見として伺っておく。

協議案件について会長が議長となり進行した。案件(1)「平成22年度事業報告・収支決算(案)について」事務局より説明後、佐々木監事より監査報告があり、原案通り承認された。案件(2)「平成23年度事業計画・収支予算(案)について」事務局とタウンマネージャーより説明をし、原案通り承認された。今年度は、タウンマネージャーを設置し専門的見地からの指導や助言を求め、関係機関との連携を図りながら、中心市街地の一体的なまちづくりを推進し積極的に事業に取り組んでいくこととした。案件(3)「任期満了に伴う委員の改選について」事務局より説明をし、委員20名が原案通り承認された。

協議案件について、委員、オブザーバーより、質疑および意見の発言があった。

協議(2)平成23年度事業計画(案)・収支予算(案)について

<質問>

・市民の足として、バス等の公共交通手段が重要なポイントとなっている中、自転車に着目した事業はとても結構なことだと思う。しかし事業説明だけでは、どのように進めて何を成果とするのかがよくわからない。市民が実際に自転車交通を利用することが出来るような提案が必要だと思う。昨年、仙台市で1カ月間、市内の主要な場所に10台の自転車を置いて、登録を済ませた市民が自由に利用出来るシステムにし、そのシステムが実際に可能かどうかというレンタサイクルの社会実験をした。実際に体験型の事業提案をしていただければ、本当に必要なものが見えてくるのではないかと思うがいかがか。

<回答> (河村タウンマネージャー)

・全国の先進事例先として神奈川県茅ヶ崎市では、バス停の近くに簡易駐輪場の設置や、市内何カ所かにレンタサイクルステーションを設置し、自転車利用の促進を図っている。秋田市においては自転車利用の促進について、個人的に考えると、中活協というよりは、秋田市のまちづくり全体として考える問題であると思う。中心市街地の自転車利用促進をどう見るかという中で、来年度完成する、再開発内の駐輪場は無料という計画になっているようだが、駅前の駐輪場は有料である。そのことから、料金設定のあり方の検討や時間限定での無料簡易駐輪場の設置等方策はあると思う。その中で、中活協として、簡単な実験を位置づけ中心市街地の自転車交通のあり方を検討する。その次は更に拡大して、タウンビークルという計画もあるので、バスと自転車が共存出来るような中心市街地のあり方については考えていきたい。また、並行して秋田市交通政策課、まちづくり整備室と情報交換をしながら進めていきたいと考えている。

<意見> (渡邊会長)

・在りきたりなものではなく、革新的なものを提案してくださるようお願いしたい。

<意見> (片谷委員)

・通町では、歩道での自転車同士の事故が多い。

秋田市が中心市街地に先進的な公共投資をするのだから、他の地域から秋田市に行きたいと思われるような、先進的な社会施設をつくり、社会実験をしてみたらいかがか。茨木市では、県庁を新設し車道に色分けをし自転車専用レーンをつくった。秋田市でも広小路の一方通行を現状のままにするのであれば、自転車専用レーンをつくるくらいの、他の地域にアピールし関心をもたれるようなシステムを導入するべきではないか。

<質問>

・自転車同士の事故が多いということであるが、本日、秋田中央警察署から課長さんがお出でになっているので何かコメントをいただきたい。

<回答> (秋田中央警察署 佐藤交通課長)

・自転車同士の事故の発生はある。資料がないので、どの場所が多いということはお話しできないが、歩道が広ければスピードが上がり大きな事故につながることもある。事故防止の観点からも、車、歩行者、自転車を分離するような道路形態も必要になってくるのではないかと思う。

<意見> (佐々木委員)

・広小路では、秋田県地域振興局の融雪道路の会議において、歩道部分を歩行者用と自転車用に色分けすることで話は進んでいる。

行政の予算の骨子は毎年10月には固まる。来年の再開発事業の完成に向けて何かを実施しようとするのであれば、今年の9月までに要望等を決めておかなければいけない。

「にぎわい創出会議」は、県、市、商工会議所で構成されていると思うが、その中で色々な協議をされているようである。当協議会での意見は「にぎわい創出会議」の中で反映されているのか。また「にぎわい創出会議」には民間はほとんどノータッチであるため、県側との調整が必要なのではないか。

<意見> (渡邊会長)

・「にぎわい創出会議」はどうなっているのかと思っている。事務局(県)において、もう一度洗い直して、「にぎわい創出会議」を活性化させるように考えていただきたい。

今後は、必要に応じて適宜に協議会を開催し、意見交換をしていくこととし閉会した。

以上